

学部・研究科名 生物産業学部
 学部長・研究科委員長名 黒瀧 秀久
 学科名・専攻名 生物生産学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	実験・実習および関連科目について、分野に偏りが無い科目配置を行っている。また、できる限り午前中から講義を受けるように科目配置を行い、規則正しい生活を促すように配慮している。現在、専門性を高めるためのカリキュラム検討を実施している。	成績不良者に対し、個別に面談を行ったり、実験や実習について、連続欠席の学生については、担任を通じた指導を実施している。また、1年生から研究室訪問を実施することにより、教員に相談しやすい環境整備に取り組んでいる。	評価時期において、学科会議等で所属教員への適正評価についての注意喚起を行っている。また、学位授与にあたり、学科の合同発表会を実施することで、各研究室の卒業論文指導の状況を把握している。	入試制度や入学時の評価を含めた学生の動向を一覧化し、学生ごとに指導方法の強弱を付けるようにしている	実験・実習を中心に、担当者間で協議を行い、見直しを実施している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 1～2年生は基礎的な内容とし、段階的に内容を濃くし、3年生以降の研究室配属による知識の深化を醸成できる科目配置となっている	【長所】 必修科目について、3回連続で欠席している学生について学科会議等で確認し、学生の面談や指導につなげている	【長所】 会議等で注意喚起することにより、要配慮学生の状況について情報共有できる。	【長所】 入学時の評価と学期毎の成績を比較し、要指導学生を中心としたフォローアップにつなげている。	【長所】 天候による調整など、より効果的な実験や実習ができるようになる。
	【特色】 1年生は基礎的な内容を重視し、2年生は専門的な科目を入れ、分野にとらわれない科目配置を目指している	【特色】 学科会議で確認を行うことで、所属学生の動向について教員間の情報共有ができる。	【特色】 学位授与を中心として、できる限り開かれた評価ができるようにしている。	【特色】 特に指導が必要な学生については、担任だけでなく、学科でフォローアップできるようにしている。	【特色】 現場を重視した実習については、その時々状況（天候等）を考慮しながら進めることができる。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 学年毎の開講科目	【問題点】 メンタル面の問題を抱えている学生についての対応が負担となっている。	【問題点】 各教員の評価レベルについて、学科の所属学生の学力レベルと合っているかの検証が不十分である。	【問題点】 状況によっては、反応の薄い学生に対する指導について、担任の負担が大きくなる。	【問題点】 実験・実習以外の科目については、学生による授業評価の良し悪しについて学科として点検できていない
	【課題】 学科名変更によるカリキュラムの見直しが必要である。	【課題】 メンタル面に問題のある学生の保護者の認識が異なる時の対応。	【課題】 学生の評価相談に対する対応についての共通認識を整理する必要がある。	【課題】 担任との連携強化。	【課題】 教員評価につながる、学生による授業評価の活用についての検討ができていない。
根拠資料名	開講科目資料	指導記録（非公開）	学科会議資料、合同卒論発表会ポスター	指導記録（非公開）	授業評価

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	過去の入試制度と、所属学生の状況（成績など）を一覧化し、分析することによって、学科への志望が強い受験生の特徴を検討し、評価を行っている。また、推薦試験においては、人物評価を数値化（得点化）し、人材育成につながる要素を加味した評価を行っている。	受験制度と入学後の成績の一覧化および学科の GPA 分布を加味した追跡調査を行い、適切な学生募集活動ができるように検討を行っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・人物評価を得点化することによって、できる限り客観的な評価が行える。 ・人材の質的保証の観点から、受験者の絞り込み時の基準を考慮することができる。	【長所】 学科のポリシーと受験生ニーズとの整合性を検討することができる。
	【特色】 学力のみならず、学科の立地条件に適合し得る学生の評価ができる。	【特色】 入学後の学生のミスマッチを減らすことができる。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 想定する受験者像と、高校側で考えている受験者像に若干のギャップがある。	【問題点】 推薦入試と一般入試の構成比率の検討が不十分である。
	【課題】 ・試験制度と、高校側の評価など、求める受験者像の整合性をはかる必要がある。 ・メンタルに問題を抱えている受験生の評価が難しい。	【課題】 全農大の中での学科の立ち位置の明確化が必要である。
根拠資料名	評価基準シート（非公開）	学生評価リスト（非公開）

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> している <input checked="" type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> している <input checked="" type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> つなげている <input type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する現状説明	研究室毎に3名の教員配置を考慮するように、学科全体の配置等について、できる限り規定に基づく対応を行っている。	学科運営や検討課題によって、適宜ワーキンググループを組織するなど、柔軟な組織体制を編成している。	人物、学術、組織運営の観点から、学科の昇格などの人事について、半期に一度検討を行っている	若手教員には、依命留学制度活用等によるスキルアップを促すと共に、研究時間が取りやすい環境の提供に配慮した、組織的な取り組みを行っている。それ以外の教員についても、地域連携、地域課題の解決を意識した研究を促している。	卒業生アンケート結果を学科教員に開示し、学科の教員の教育活動に関する自己評価を促している。また、自己教育評価の入力を促している。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 学生の適正な指導ができる	【長所】 学科運営の効率的な展開が行える。	【長所】 適正な職階と人員の配置が検討できる。	【長所】 地域課題解決へ向けた取り組みが行いやすい。	【長所】 できるだけ客観的な自己評価と見直しをはかることができる。
	【特色】 幅広く学生対応が行える。	【特色】 年齢構成や職階などによるフレキシブルな体制が構築できる	【特色】 昇格などへ向けた研究業績点検の目安ができる	【特色】 各教員の研究を地域の課題解決に役立てることができる。	【特色】 できる限り明確なデータを提供できる
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 他機関（寒冷地農場）兼務があるため、教員の適正配置に考慮が必要である	【問題点】 ・ワーキングの主担当教員の負担が増える。 ・学科の構成上、重複してメンバーとなる教員が出る。	【問題点】 研究業績などの不足による計画変更が生じる可能性がある。	【問題点】 公式、非公式を含め、各教員の連携状況が把握し切れていない	【問題点】 学科内教員の課題についての検討が不十分である。
	【課題】 学生ニーズと研究室の対応する教員数とのギャップ解消が必要。	【課題】 ワーキングの主担当教員や、重複メンバーの解消。	【課題】 学科内でのバックアップ体制が未熟である。	【課題】 地域連携の内容についての評価。	【課題】 教員の教育研究活動の検証。
根拠資料名	学部・学科・課程紹介		学科人事計画書		卒業生アンケート

学部・研究科名 生物産業学部
 学部長・研究科委員長名 黒瀧 秀久
 学科名・専攻名 アクアバイオ学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input type="checkbox"/> している <input checked="" type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	・カリキュラムポリシーに基づいて授業科目を配置している。 ・学部方針とも合わせて、点検、再構成を行っている。	・シラバス内容を定期的に確認、必要な改訂を行うこととしている。 ・学生の履修指導（面談）を密に行うよう努力している。1年次生は年2回（春・秋）、2年次生は春季と後期の研究室希望調査の際に、3・4年次生は春季とともに、必要に応じて実施。	・学科内でディプロマポリシーについての共通理解を図っている。	・定期試験、授業中に行う小テスト、レポートなどによる評価を、科目ごとの特徴を活かして実施している。	・学科内に置いたFD委員会（仮称：基本的に全員参加）において、点検・評価を行っている。 ・この席において、学部カリキュラムの再編に向けた取り組みと並行した話し合いを行っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・選択必修を効果的に配置することで、より専門性の高い内容を各分野で学べる。	【長所】 ・学生の希望、不満、悩みなどと触れ合うことで、一方通行の講義、実験、実習とならないよう配慮している。	【長所】 ・卒業論文の発表会は公開としている。	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・水産関係科目を幅広く学ぶことができる。	【特色】 ・特に、2年次生向けの研究室希望調査時には、2回の希望調査アンケートを実施するなど、各研究室・各教員ができるかぎりの対応を心がけている。	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・H30年度からの新たな分野体制に沿ったカリキュラム編成が、十分ではない。	【問題点】 ・多数の学生に対し、どう効果的な講義、実験、実習を行うか。	【問題点】 ・教員個々の責任ある教育、指導方針に頼らざるを得ない。	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・学部FD・教学委員会と連携して、より良いカリキュラムの作成を目指す。	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	学修のてびき 講義要項<シラバス>	面談記録（旧「学生カルテ」）	・なし	・なし	・なし

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	<ul style="list-style-type: none"> 各入試制度による受験の可否は、学科教職員全員が出席する選考会議でデータを示しながら、論議し、決定している。 地域後継者、卒業生子弟、指定校などの推薦制度で受験する学生に関しては、特に学科方針との整合性に注意を払い、公正性を確保している。 	<ul style="list-style-type: none"> 例年、年度末から年度始めの時期に、前年までの受験状況を踏まえた指定校の見直しを行っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・指定校に関しては、水産系高校の出身者が利用できるように配慮している。	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・推薦制度を利用する入学者の割合が高いため、一般試験とセンター利用による受験者との学力の差が懸念される（必ずしも、後者の入学者が優れているわけではない）。	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・推薦制度に、学力試験を配置することを検討。	【課題】 ・具体的な課題をあげることはできないが、今後、受験生が減少していく現状を踏まえ、受験生にとって魅力ある学科のあり方、進学の可能性を適切に示しうるかが課題となる。
根拠資料名	東京農業大学募集要項・東京農業大学ホームページ	・なし

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input type="checkbox"/> つなげている <input type="checkbox"/> 一部つなげている <input checked="" type="checkbox"/> つなげていない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・H30年度に学科名称の変更があり、これまでの3分野6研究室から2分野4研究室の体制になった。 ・移行期間のことを最大限に考慮し、従来の研究室が分割されないことがないよう、各教員の編制を決定した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の3分野6研究室体制に比べると、学科の構成がコンパクトになり、多様な水産関連分野を適切に配置することができた。 ・H30年度時点では、配置した教員の数に偏りが見られるが、数年後には定員12名が各研究室に3名ずつ置かれる予定となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・H30年度の時点で、本学科は嘱託教授を含め13名の教員で構成されている。 ・当面、教員の空席は発生しないが、必要に応じた対応を行って行く。 ・昇任については、業績、年齢、研究室の構成などを踏まえ、適切に対処する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでのところ、大学で行っている授業評価アンケートや、FD関連講演会等の出席など、教員個々の必要性に応じた行動がある程度。 	<ul style="list-style-type: none"> ・H30年度からの新体制では、これまでの反省を踏まえた改善が行われた。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 <ul style="list-style-type: none"> ・網走が立地する自然豊かな環境をフィールドとする共生分野と、増養殖研究を推進するフードシステム分野に分かれた。 	【長所】 <ul style="list-style-type: none"> ・特色のある専門性を持つ教員が、各分野、各研究室に配置されている。 	【長所】 <ul style="list-style-type: none"> ・なし 	【長所】 <ul style="list-style-type: none"> ・なし 	【長所】 <ul style="list-style-type: none"> ・なし
	【特色】 <ul style="list-style-type: none"> ・特に、生物系に興味をもつ学生には選択幅の広い分野・研究室構成になっている。 	【特色】 <ul style="list-style-type: none"> ・なし 	【特色】 <ul style="list-style-type: none"> ・なし 	【特色】 <ul style="list-style-type: none"> ・なし 	【特色】 <ul style="list-style-type: none"> ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 <ul style="list-style-type: none"> ・将来的に予想される学部改組の中で、本学科の魅力をどう維持させるか。 	【問題点】 <ul style="list-style-type: none"> ・学部方針に照らすと、まだ加工・流通分野が不十分である。 	【問題点】 <ul style="list-style-type: none"> ・なし 	【問題点】 <ul style="list-style-type: none"> ・なし 	【問題点】 <ul style="list-style-type: none"> ・なし
	【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・なし 	【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・なし 	【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・なし 	【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・組織的な活動とともに、教員個々が行う資質向上を支援し、両者をリンクさせる方法を考えること。 	【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・学科としての取り組みを明文化、共通認識化する必要性。
根拠資料名	東京農業大学ホームページ 学部・学科・課程紹介	東京農業大学ホームページ 学部・学科・課程紹介	・なし	・なし	・なし

学部・研究科名 生物産業学部
 学部長・研究科委員長名 黒瀧 秀久
 学科名・専攻名 食品香粧学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	学科内にカリキュラム検討委員会を設置し、FD委員会との協働により授業科目を解説設置している。ディプロマポリシーの要件に必要な要素を抽出し、各要素を充足するシラバスの構成を考え、シラバス遂行に資する科目を設定している。	○知的好奇心を刺激するよう体験型の実験実習を1学年に配置。○高校生でも理解しやすい専門科目を1学年に設置し早い時期に専攻領域を意識させる。○専攻領域の実践的知識を深められるよう、社会の一線で活躍する社会人を講師に招いた特別な講義の実施。○科目とは異なる食香粧に関する学科プロジェクトを設定し、成果物の創出に努めさせている。	通常の定期テスト、追再試テストの他に期日遵守のレポート提出や小テストを実施し、効果計測に努めている	○各年次に必要な単位数を年頭のガイダンス時に全学生に周知している。 ○3年次終了時点の成績を収集し、4年次に履修が必要な科目の有無を確認している。履修が必要な場合は履修指導を所属研究室が責任を持って実施している。学位授与方針を充足出来なかった学生は留年させている。	半期毎のGPAを収集し、低下傾向にあるもの、著しく低いもの(1.5以下)を抽出。必修科目にDやFがあるもの、出席状況の悪いものについても抽出し、担任が個別指導を実施している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・効果的な科目の設定の効率化が図れる。	【長所】 ・キャリアに対する意識付けが低学年からできる。 ・学科プロジェクトにより時間割の空き時間を補完できる。	【長所】 ・個々の学生について状況把握ができる	【長所】 ・ディプロマポリシーを定期的に確認できる	【長所】 ・教員全体で学生と向き合える
	【特色】 ・生産、加工の現場が近く、生産-加工-流通、ビジネスを一気通貫で学ぶことができる	【特色】 ・実学の現場を知ることができる。	【特色】 ・学生の成績データおよび面談状況はMyDiscで共有し随時アップデートしている	【特色】	【特色】
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 ・資格科目に配慮すると設置科目数が多くなる傾向にある	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 ・問題が顕在化してからの対応となること。	【課題】 なし
根拠資料名	学修のてびき・講義要項<シラバス>	学科ホームページ、学科SNS、クックパッド学科ページ	授業記録		

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> している <input checked="" type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	推薦試験についてアドミッションポリシーを考慮した面談を実施している。	入学者の入試制度、入学時基礎テスト点数とその後の学生生活状況、成績を定期的に追跡調査し、受入の改善に役立てている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・ 受入方針を理解した学生を受け入れることができる。	【長所】 ・ 学生の成績情報を定期的に把握することができる。
	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・	【問題点】 ・ 授業欠席状況をリアルタイムで把握できない問題がある
	【課題】 ・ キャンパス見学会などにおけるアドミッションポリシーの提示方法	【課題】 ・
根拠資料名	東京農業大学ホームページ 東京農業大学募集要項	

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> している <input checked="" type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> つなげている <input type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する現状説明	・学科の教授会において組織編成を決定し、学科会議にて方針を明示している。 ・外部には、教員募集の際に本方針を踏まえた内容を大学ホームページに掲出している。	教員数、教授数は設置基準を満たしている。しかし、教員の年齢構成については、若手が不足している。	昇任については適切に行っているが、補充についての採用活動は充分でない。	重点内容について科目間でシラバスを重複させ指導することを個々の教員が実施している。 定期的な自己点検システムへの入力と評価	教員採用については申請期限の度に学科の教授会および学科会議の議題とし話し合いの場を設けている。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・	【長所】 ・	【長所】 ・	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・オホーツク地域の特色・強みを活かすことのできる業績・考えを持った教員であること	【特色】 ・食、香、化粧の幅広い分野を網羅する研究室構成。	【特色】 ・	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・	【問題点】 ・若手教員の不足。	【問題点】 ・教員数が不足している	【問題点】 ・教員個人の目標設定にはなっているが、組織としての目標にどうつなげるか。	【問題点】 ・
	【課題】 ・	【課題】 ・若手教員の補充が課題。	【課題】 ・不足教員の補充のため採用活動に取り組む。	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名			資格審査委員会資料	自己教育評価のアンケート 授業・研究室アンケート	大学案内

学部・研究科名 生物産業学部
 学部長・研究科委員長名 黒瀧 秀久
 学科名・専攻名 地域産業経営学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	・学部の共通科目とともに、実学を重視した専門教育科目の体系的な履修を目指している。	・学科の教学WGが定期的に会議を開催し、学科会議で報告し、様々な措置を講じている。 ・1月に各ゼミ代表による卒論のポスター発表会を開催している。	・ゼミ及び研究室担任が中心となり適切に行っている。 ・前期・後期にゼミ単位で学生の面談を実施している。	・ゼミ及び研究室担任が中心となり適切に行っている。 ・3、4年次生には毎年卒業論文抄録集を配布し、卒論指導の一環としている。	・学科の教学WGが定期的に会議を開催し、その内容を学科会議で報告し、取り組んでいる。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・基礎的科目から専門科目まで総合的・体系的な履修ができる。	【長所】 なし	【長所】 なし	【長所】 なし	【長所】 なし
	【特色】 ・文理融合の教育が実践できる。	【特色】 なし	【特色】 ・基礎ゼミから卒論指導まで各学年で少人数のゼミ指導ができています。	【特色】 ・基礎ゼミから卒論指導まで各学年で少人数のゼミ指導ができています。	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 なし	【問題点】 ・教員の業務負担が増加している。	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 ・文理融合の教育成果が身についているかの評価をどの様に把握できるのか。	【課題】 ・卒論ポスター発表会は後期試験期間と重なり、2、3年生の参加が限られる。	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名	履修のてびき・講義要項（シラバス）	学科会議資料 卒論ポスター発表会案内	学生指導記録	卒業論文抄録集 学生指導記録	学科会議記録

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	・学科のアドミッション・ポリシーに基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施している。 ・生物産業および自然環境の共生、北海道オホーツク的环境に興味を抱く学生を受け入れている。	学科会議において、学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っている。その結果を受け改善・向上に向けた取り組みを行っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・北海道オホーツクのフィールドを活かした体験型学習が実践できている。	【長所】 ・なし
	【特色】 ・体験学習を経験できることで、生物産業関連の仕事内容や起業に興味を抱く学生を育成できる。	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・入学選抜の適切性やアドミッション・ポリシーの制度的な検証を構築する必要がある。
根拠資料名	東京農業大学生物産業学部（地域産業経営学科）募集要項 東京農業大学生物産業学部（地域産業経営学科）ホームページ	なし

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input type="checkbox"/> つなげている <input checked="" type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	・分野及び研究室の特色を示し、学科会議等で検討をしている。 ・教員募集の際には学科の方針を踏まえた内容を提示している。	・分野・研究室の特性や教員の年齢構成・専門分野を考慮し教員配置を行っている。	・教員採用は一般公募として、大学のホームページで募集している。 ・昇格等は自己申請を基本とするが、公正かつ厳格（審査基準）に実施している。	・授業評価および学修時間アンケート結果に基づき、授業改善に各教員が取り組む。	・学科の人事委員会で人事計画を立案し、これを学科会議等で確認・共有している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・文理融合型教育の実践	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・2分野5研究室体制により幅広く経営学を学ぶことができている、	【特色】 ・	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・授業評価および学修時間アンケート結果の反映は、各教員の裁量に任されている。	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・分野・研究室・学科全体でのチェック体制の構築。
根拠資料名	分野及び研究室の方針 教員募集に関わるホームページ	学部・学科・課程紹介	資格審査委員会資料	自己教育評価アンケート	学部・学科・課程紹介

学部・研究科名 生物産業学部
 学部長・研究科委員長名 黒瀧 秀久
 学科名・専攻名 生物生産学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②
目 標	<p>■学生と教員間の交流事業</p> <p>2年次の後学期に行う研究室の所属選考へ向けて、1年次生を中心とした研究室訪問活動を展開し、学科や研究室、教員の取り組みや研究について学生に理解を深めさせるとともに、自ら行動し学ぶ姿勢を醸成する。</p>	<p>■教育カリキュラムの改正へ向けた検討</p> <p>平成30年度からの学部・学科改組に基づくカリキュラム改正へ向けて、実験科目および実習科目を中心とした現行のカリキュラムの見直しを行い、1・2年生次の学生を中心とする魅力的な実験・実習について検討する。</p>
実行サイクル	<p><u>1</u>年サイクル（平成29年）</p>	<p><u>2</u>年サイクル（平成29年～30年）</p>
実施スケジュール	<p><平成29年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究室訪問の実施方法についての検討（～4月） ・1年次生への周知と班分け（～5月） ・研究室訪問の実施（～12月） ・1年次生へのアンケート調査および解析（～2月） 	<p><平成29年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科内WGによる課題設定、他学科との関連性についての検討（～9月） ・学科内WGの検討内容についての学科内検討（～10月） ・実験・実習科目内容変更に基づく、専門科目配置についての検討（～12月）
目標達成を測定する指標	<p><平成29年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究室訪問出席者数 ・1年次生への研究室訪問に関するアンケートおよび感想 	<p><平成29年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験・実習科目内容の決定 ・専門科目の再配置についての検討
自己評価（☑を記入）	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	<p>4月のフレッシュマンセミナーを契機とし、初回は半強制的に訪問する研究室を指定し、前学期に実施した。また、後学期は自由訪問とし、大学生として自ら行動することの大切さを周知する機会とした。</p> <p>自由訪問以降に研究室を訪れる学生は極端に少なくなり、実施方法について検討が必要と考えられた。</p>	<p>新学科意向と教職課程再認定を契機とし、実習内容の見直しを実施した。学科会議等を通じて、教員間の意思統一を図ると共に、将来学科運営を担う若手教員（准教授職以上）をメンバーとするワーキンググループ（WG）を立ち上げ、1～2年次の実習のあり方を協議した。</p> <p>協議結果を基に、全体の科目構成の見直し名などに着手し始めた。</p>
現状説明を踏まえた長所・特色	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生から研究室や教員を知るきっかけづくりを行うことで、講義内容への質問や成績評価に対する問合せなど、積極的に行う学生がみられた。 <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究室毎に研究室訪問時に実施する内容を一任し、気軽に訪れる雰囲気作りとこれまで興味のなかった分野への関心を引き出し、グローバルな視点を醸成することができる。 	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状で問題となっている実習内容を精査し、学年毎で偏りが出ている分野間の実習を整理することで、学生に実習の流れを説明しやすくなる。 <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状の現場で行う実習の効果をより高めることができる。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の自主性を重んじ強制参加にしなかったが、研究室間の温度差があったこともあり、初回の参加学生は半数だった。 ・研究室訪問時期等をアナウンスしたが、出席できない場合に連絡をしない学生が多数おり、社会人としてのマナーも喚起する必要がある。 	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度以降のカリキュラム再編成との関係により、検討した内容を再検討しなければならない。

平成29年度 包括的な点検・評価報告書

様式2

への課題	【課題】 ・学生生活を送る上でのマナーなど、高校までの学生生活との違いを考えさせる時間が必要である。	【課題】 ・当初予定していた実習先との連携が難しくなる場所もあり、完全実施へ向けて段階的な実施を検討する必要がある。
根拠資料名	学生へのアンケート調査結果	学科内WG 検討資料

2. 研究に関する総合的事項

	①	②
目 標	<p>■研究室間の連携による地域貢献型研究の推進</p> <p>各研究室および教員の知財を活用し、研究室間の連携による生物生産分野を中心とした地域の課題解決へ向けた研究を推進する。</p>	<p>■連携協定を活用した研究環境の整備</p> <p>連携協定を締結した農協を中心として、人材育成を考慮した験研究の協力体制を整備する。</p>
実行サイ クル	<p>2 年サイクル（平成 29 年～平成 30 年）</p>	<p>3 年サイクル（平成 29 年～31 年）</p>
実施 スケジ ュー ル	<p><平成 29 年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的取組内容の検討（～4 月） ・連携先機関との協議およびスケジュール調整（～5 月） ・研究の遂行（～3 月） 	<p><平成 29 年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究体制構築へ向けた関係機関との協議（～8 月） ・試験研究と地域ニーズの確認（～12 月）
目標達成 を測定す る指標	<p><平成 29 年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究プロジェクト等の計画書および報告書 ・プロジェクト参画教員数 	<p><平成 29 年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携体制の策定 ・参画教員数
自己評価 (☑を記 入)	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	<p>現在、学科内の 2 研究室（動物バイテク研究室、動物生産管理学研究室）を中心に、「東京農業大学 大学戦略研究プロジェクト」を活用し、地元のエミュー牧場のニーズに対応できる研究を進めている。</p> <p>課題名：先端技術を活用した新規動物資源エミューの迅速な家畜化と高能力化</p>	<p>地元の JA や研究機関などとの意見交換を行い、お互いの現状などについて意見交換できる場があった。</p> <p>それぞれの思惑に対し、協力体制構築へ向けての対応を整理する必要があることがわかった。</p>
現状説明 を 踏まえた 長所・特 色	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元のエミュー牧場の現状整理を行い、今後の課題を整理することができた。 ・研究室間の連携を図り、研究のための設備の共通化などを考える基礎となる。 <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルの飼育管理方法の成果を科学的にまとめることにより、他地域へ波及させることができ 	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携先と農大で、どのような研究や教育が行われているか、認識し合うことができた。 ・何ができて、何ができないのかを整理することができた。 <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中立的な立場として大学を活用する場面を作ることができた。 ・地元ならではのニーズを知ることができた。
現状説明 を 踏まえた 問題点及 び次年度 への課題	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究協力いただいている牧場の飼育管理の変更が度々あり、研究内容を都度見直す必要がある。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究協力牧場の理解を深めてもらうことが必要である。 	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元にある農学系大学である認識が薄い。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農大発の情報発信源について、見直しが必要である。
根拠資料 名	<p>平成 28 年度東京農業大学 大学戦略研究プロジェクト報告書</p>	

3. その他に関する総合的事項

①	
目 標	<p>■受験生（学生）確保に向けた取り組み</p> <p>オホーツクキャンパスの地域性および H30 学科名称変更と H31 カリキュラム変更を踏まえ、学部の入試活動との連携を図りながら学科の魅力づくりに取り組む。</p>
実行サイクル	<p>2 年サイクル（平成 29 年～平成 30 年）</p>
実施 スケジュール	<p><平成 29 年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部や入試対策実行委員会を中心とした現状分析（～8 月） ・研究室や教員の取り組みについての紹介ポスターなどの作成（～7 月） ・オープンキャンパス等の展示内容の検討（7 月）
目標達成を測 定する指標	<p><平成 29 年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス参加者数 ・イベント参加者へのアンケート ・平成 31 年度入試志願者状況
自己評価 (☑を記入)	<p><input type="checkbox"/> 達成した</p> <p><input type="checkbox"/> 一部達成した</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 達成できず要継続</p> <p><input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更</p>
目標に 対する 現状説明	<p>新学科名称（北方圏農学科）への変更にあたり、現在の学科との違いについて、学科内の認識に微妙なズレが生じていることがわかった。</p> <p>オープンキャンパスや個別訪問で得た参加者からの質問、学科内で検討中のカリキュラム見直しなどを活かし、次年度の活動につなげる予定である。</p>
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザインを変えたシンプルなチラシ式の学科説明資料を作成し、オープンキャンパス参加者に自由に手にとってもらうことによって、新学科（北方圏農学科）に対して抱くイメージを知ることができた。 <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンプルなデザインで 4 種類のチラシ式の学科説明資料を作成し、新学科（北方圏農学科）のイメージを伝えた。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・想定以上に、web 媒体の資料よりも、紙媒体の資料を求められることが多かった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスへの参加形態についても把握する必要がある。 ・高校からの指導による参加であれば、参加した証拠となる紙媒体の資料が必要と考えられる。
根拠資料名	<p>オープンキャンパスで配付した学科紹介の資料</p>

学部・研究科名 生物産業学部
 学部長・研究科委員長名 黒瀧 秀久
 学科名・専攻名 アクアバイオ学科

1. 教育に関する総合的事項

①	
目 標	<p>■教育カリキュラムの改正</p> <p>平成31年度の学部方針に基づく生態系循環エコアグリフードシステムを基軸とした教育カリキュラムへの改正に向けて、学部共通の学科横断的体験型プログラム等を踏まえ、その中で特に1・2年次にとって魅力のある学科専門分野の学びに重点を置いたカリキュラムを策定する。</p>
実行サイクル	2年サイクル（平成29年～平成30年）
実施スケジュール	<p><平成29年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科内での問題意識の擦り合わせ、具体的方針の策定（～8月） ・教学検討委員会の方向性、教職課程再課程認定への影響等、前提条件の整理及び共有（～8月） ・WG学科委員を中心に学科専門カリキュラムの検討（～12月）
目標達成を測定する指標	<p><平成29年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科専門カリキュラムの策定 ・学則改正案（カリキュラム）の作成
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・H30年度から学科名称が変更され、3分野から2分野の体制となる。一部、学科専門科目での統廃合および新設が行われる。 ・教職課程再課程認定に関しては、H30年2月現在、基礎実験（アクアバイオ基礎実験→海洋水産基礎実験）の内容についての宿題がある。これについては同3月中にはシラバスの改訂により対応する。 ・その他、専門教育科目については、一部科目の統廃合を含めた検討を、学科の教学・FD委員を中心に進めている。
現状説明を踏まえた長所・特色	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1、2年次に、学科の基礎に加え、現場体験を含む実験・実習を体験できる。 ・研究室配属後には、より高度な専門性に触れることができる。 <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年に応じた問題意識を育み、意欲の向上を図る。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部改組を踏まえ、魅力あるカリキュラム作りが必要。
根拠資料名	講義要項<シラバス>

2. 研究に関する総合的事項

①	
目 標	<p>■地域のニーズに則した研究活動の実施</p> <p>10年を経過したアクアバイオ学科では、学科の専門性を活かし、網走市、オホーツク圏、北海道、さらにつながりを持つ海域・地域におけるニーズに応えるべく、教員・研究室それぞれの研究活動の幅を広げ、内容を深化させる。その研究成果を学科の学生教育及び地域・社会等に広く還元する。</p>
実行サイクル	3年サイクル（平成29年～平成31年）
実施スケジュール	<p><平成29年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在までの具体的取組内容の整理、今後の可能性についての検討（～12月） ・関連する漁協等の団体や自治体との共同研究の計画立案（～3月）
目標達成を測定する指標	<p><平成29年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同研究の企画・策定 ・関連した外部資金への応募・獲得状況
自己評価 (☑を記入)	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・継続および新規の共同研究等が多数あり、外部資金を得て、調査・研究が薦められている。以下は、そのごく一例である。 サケの病原体調査と無病証明（網走漁協・斜里第一漁協・道総研） サロマ湖でのホタテガイ養殖許容量評価に関する研究（サロマ湖増養殖漁協） 網走湖産ヤマトシジミに関する研究（西網走漁協・道総研） ホッカイエビの資源管理への協力（湧別漁協、佐呂間漁協、常呂漁協、サロマ湖養殖漁協、西網走漁協および野付漁協） 標津沖における地まきホタテ貝の餌環境の解明（標津漁協） 能取湖の漁業資源管理の基盤となるプランクトン群集に関する研究（西網走漁協） など
現状説明を踏まえた長所・特色	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査等の内容は卒論あるいは大学院での研究に活かされ、地域・社会等へ成果がもたらされる。 <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実学的な内容を含む調査・研究であり、学生の意識を向上させることができる。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部の教員に負担がかかることが懸念される。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし
根拠資料名	調査研究の計画書

3. その他に関する総合的事項

①	
目 標	<p>■受験生（学生）確保に向けた取り組み</p> <p>オホーツクキャンパスの地域性及び H30 学科名称変更・H31 カリキュラム変更を踏まえ、ディプロマポリシーに沿った高い目的意識を持つ受験生を確保するため、大学・学部全体による広報・募集活動に加えて、積極的な取り組みを展開する。</p>
実行サイクル	2 年サイクル（平成 29 年～平成 30 年）
実施 スケジュール	<p><平成 29 年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科長、入試対策実行委員による方針の策定（～10 月） ・次年度広報・募集活動計画策定、次年度予算申請（12 月）
目標達成を測 定する指標	<p><平成 29 年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現行実施の広報関係企画の評価作成 ・次年度広報・募集活動計画策定 ・平成 31 年度入試志願者状況
自己評価 (☑を記入)	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・H31 年度入試に向けて、指定校の絞り込み（追加も含めて）を検討中。 ・これからの入試関係活動のために、学科パンフレット（改訂版）を作成した。 ・いくつかの高校等からの依頼に対し、学部・学科の説明や出張講義のために教員を派遣した。 福島町吉岡小学校（園田武・松原創）、標津町（西野康人・塩本明弘）、高文連理科大会（帯広市：千葉晋）、横浜星稜高校（渡邊研一）、夢ナビライブ（東京：小林万里）など ・世田谷およびオホーツクキャンパスでの入試イベント（キャンパスツアー、オープンキャンパス）への対応。 在学学生からの目線で説明・応対をすることで、多くの受験希望者・見学者に関心を持ってもらうことができた。 ・H30 年度の推薦入試では、一般推薦で 20 名（定員 19 名）、指定校で 22 名の応募があり、意識の高さが見られなかった 4 名（各制度で 2 名ずつ）を不合格とした。 また、一般試験 A 日程およびセンター利用試験前期では、いずれも多数の志願者があり、合格者の最低点数を上げることができた。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦系入試での入学者の割合が 6 割を超えた。 ・このため、一般試験とセンター利用による受験者との学力の差が懸念される（必ずしも、後者の入学者が優れているわけではないが）。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦系入学の割合については、次年度、アクアバイオ学科の H29 年度入試のレベル（48.9%）がひとつの目標となる。 ・推薦制度に学力試験を含めることを検討。
根拠資料名	<p>学科オリジナルパンフレット</p> <p>東京農業大学ホームページ</p>

学部・研究科名 生物産業学部
 学部長・研究科委員長名 黒瀧 秀久
 学科名・専攻名 食品香粧学科

1. 教育に関する総合的事項

①	
目 標	<p>■教育カリキュラムの改正</p> <p>平成31年度の学部方針に基づく生態系循環エコアグリフードシステムを基軸とした教育カリキュラムへの改正に向けて、学部共通の学科横断的体験型プログラム等を踏まえ、その中で、天然資源および食品や香粧品素材の性質や製造原理など基礎から応用まで総合的な学びに重点を置いた学科の特色・専門性をより活かせる学科専門カリキュラムを策定する。</p>
実行サイクル	<p><u>2</u>年サイクル（平成29年～平成30年）</p>
実施 スケジュール	<p><平成29年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・WGによる課題設定、スケジュール等調整（6月） ・教学検討委員会の方向性、教職課程再課程認定への影響等、前提条件の整理及び共有（～8月） ・WG 学科委員を中心に学科専門カリキュラムの検討（～12月）
目標達成を測定する指標	<p><平成29年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科専門カリキュラムの策定 ・学則改正案（カリキュラム）の作成
自己評価 (☑を記入)	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	<p>これまでに、食品製造学実習、香粧品製造実習をそれぞれ原料、素材の基礎を学ぶ（一）と専門知識を背景にした応用を学ぶ（二）に分けて設定し、特に食品製造実習（一）では、食品加工を早期に体感し、学習意欲を向上させるために1年次後期に設定する等の原案を策定した。引き続き、その他専門教育科目の変更（改善）について学科FD委員を中心に検討中である。</p>
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低学年のうちから現場を体験することができる。 <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低学年での現場体験によって問題意識の醸成と学習の動機付け、意欲の向上が図れる。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、さらにオホーツク地域の特色・強み（同系他大学から見た優位性）を活かした専門科目を設定するとともに、教職課程再課程認定に必要なカリキュラムをバランスよく設定する必要がある。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物資源を食品開発、化粧品開発に展開するためにそれぞれ必要な科目と生物資源活用のための融合科目について、ディプロマポリシーに配慮した科目の精査と配置することが課題である。
根拠資料名	<ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度カリキュラム表（作成中）。

2. 研究に関する総合的事項

①	
目 標	<p>■連携協定や共同研究等を活用した研究プロジェクトの実施</p> <p>学科の専門性を活かした食品、香料および化粧品をテーマとする連携研究プロジェクトを関連企業あるいは研究機関と企画・実施するとともに、この研究成果を学科の学生教育及び地域・社会等に広く還元する。</p>
実行サイクル	3年サイクル（平成29年～平成31年）
実施スケジュール	<p><平成29年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的取組内容の検討、参画教員選定（～10月） ・連携先機関への打診（～12月） ・実施に向けた連携先機関とのスケジュール調整（～3月）
目標達成を測定する指標	<p><平成29年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携研究プロジェクトの策定 ・プロジェクト参画教員数 ・関連した外部資金への応募・獲得状況
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	<p>食品、香料、化粧品について以下のプロジェクトを策定し成果を得ている。</p> <p>【食品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度「国産牛肉の付加価値向上のための新たな熟成牛肉の開発と普及」事業における熟成肉に関する調査（受託研究） ・平成29年度経営革新ドライエイジングポークの付加価値向上のための委託研究（比較研究）（受託研究） ・上記①および②を遂行するための官能評価学科プロジェクト（官能評価学を履修した学生による分析型官能評価の実践） ・大学院高度化事業「茶草場プロジェクト」連携農園（せんがまち棚田倶楽部）の協力による菊川産茶葉を使った紅茶製造実習（食香1年次） ・ビールおよびウィスキーの製造講義と官能評価（サントリーイノベーションセンター） ・ノエビアとの機能性食品素材開発 ・学科大麦プロジェクト、化粧品製造プロジェクト策定 <p>【香料】</p> <p>【化粧品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルピオン連携協定に基づく学生のスリランカ派遣（農園整備と有価成分の抽出・濃縮・分析）
現状説明を踏まえた長所・特色	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・官能評価データ、二条大麦収穫物、廃棄にがりを活用した入浴剤、触媒研究成果であるラズベリーケトンを活用したアロマオイルといった学生自身による成果物の創出。 ・学生が成果を実感できる仕組み。 <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種プロジェクトの設定により社会貢献を学生が実感できる仕組みであること。プロジェクト参画企業に対してもベネフィットがあること。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトにおいて高校生にもわかりやすい成果をあげること。プロジェクトを通じた学生生活活性化の水平展開。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生への動機付け。教員のエフォート管理。
根拠資料名	<ul style="list-style-type: none"> ・研究計画書、研究契約書等。

3. その他に関する総合的事項

①	
目 標	<p>■受験生（学生）確保に向けた取り組み</p> <p>オホーツクキャンパスの地域性及び H30 学科名称変更・H31 カリキュラム変更を踏まえ、多面的評価による高い志や目的意識を持った受験生を確保するために、大学・学部全体による広報・募集活動に加えて、学科独自の取り組みとして以下の広報・募集活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科オリジナルのパンフレット作製 ・SNS を活用した広報活動 ・積極的な出張講義の実施 ・各種入試広報に関するイベントへの参加
実行サイクル	2 年サイクル（平成 29 年～平成 30 年）
実施 スケジュール	<p><平成 29 年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科長と入試対策実行委員会を中心とした現状分析（～8 月） ・活動原案作成→学科内調整→オホーツク入試課と調整（～11 月） ・次年度広報・募集活動計画策定、次年度予算申請（12 月）
目標達成を測 定する指標	<p><平成 29 年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現行実施の広報関係企画の評価作成 ・次年度広報・募集活動計画策定 ・平成 31 年度入試志願者状況
自己評価 (☑を記入)	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・学科オリジナルのパンフレット作製： 学生の意見やデータを取り入れた学生目線の独自パンフレットを作製した。 ・SNS を活用した広報活動： ツイッター、インスタグラムの活用、連携協定先である化粧品検定協会のツイッター、インスタグラム、line の活用によるイベント広報活動。 ・積極的な出張講義の実施： 11/22 妙田貴生准教授 於 横須賀学院高等学校。 ・各種入試広報に関するイベントへの参加（出張先高校、担当教員、講義テーマ、講義日、対象学生）。 7/31-8/4 妙田貴生准教授第 41 回全国高等学校総合文化祭みやぎ総文 2017 出典・参加 世田谷キャンパスツアー（6 月）への参加 ・化粧品検定協会連携記念事業として、大根石鹸製造のイベント実施（11/12 世田谷キャンパス）。 ・客員准教授 小西さやか氏のフレッシュマンセミナー知床研修参加とその情報発信。 ・指定校・一般推薦入試受験者数の向上。特に指定校によって偏差値および評定の高い高校生が確保できた。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携先のイベント告知との相互乗り入れが出来る点が長所。 <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学の入試広報以外のチャネルを活用した情報発信。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発信した情報がどのように受け止められているのか不明である。情報の質に関するアセスメントができない。 ・効果的なチャネルをさらに増やす方策が必要。 ・受験生漸減を食い止める方策の策定。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果の計測が充分でない。
根拠資料名	<ul style="list-style-type: none"> ・学科オリジナルパンフレット、イベント企画書・実施要項等。

学部・研究科名 生物産業学部
 学部長・研究科委員長名 黒瀧 秀久
 学科名・専攻名 地域産業経営学科

1. 教育に関する総合的事項

①	
目 標	<p>■教育カリキュラムの改正</p> <p>平成31年度の学部方針に基づく生態系循環エコアグリフードシステムを基軸とした教育カリキュラムへの改正に向けて、学部共通の学科横断的体験型プログラム等を踏まえ、①フィールドワークと体験重視のプログラム、②実学を重視した専門教育科目の体系的な履修に重点を置いた学科の特色・専門性をより活かせる学科専門カリキュラムを策定する。</p>
実行サイクル	<p><u>2</u>年サイクル（平成29年～平成30年）</p>
実施スケジュール	<p><平成29年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・WGによる課題設定、スケジュール等調整（6月） ・教学検討委員会の方向性、教職課程再課程認定への影響等、前提条件の整理及び共有（～8月） ・WG 学科委員を中心に学科専門カリキュラムの検討（～12月）
目標達成を測定する指標	<p><平成29年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科専門カリキュラムの策定 ・学則改正案（カリキュラム）の作成
自己評価 (☑を記入)	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	<p>地域産業経営学ゼミナール（B）（D）のプログラム内容を変更し、実学を重視した「起業体験プロジェクト」「農業女子プロジェクト」「農大マルシェプロジェクト」「政策提言プロジェクト」「環境共生プロジェクト」を設けた。全てのプロジェクトが実学を重視し、目標に見合ものとなっている。他専門教育科目の変更（改善）については、学科教学FD委員を中心に現在も検討中である。</p>
現状説明を踏まえた長所・特色	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実学重視のプロジェクトは、オホーツクの地域資源を最大限に活かしている。 <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実学主義を徹底することにより、課題発見と解決に向けた思考力を養うことができる。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然資源経営学科へと名称変更することにより、社会科学と自然科学が融合する専門科目を設定する必要がある。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題点の解決に向け、他学科と連携したカリキュラムの充実が必要となる。
根拠資料名	<ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度カリキュラム表（作成中）。

2. 研究に関する総合的事項

①	
目 標	<p>■連携協定を活用した研究プロジェクトの実施</p> <p>生物産業学部が締結した産官学金労による多様な包括連携協定を利用して、学科の専門性を活かした「起業体験プログラム及び地方創成フォーラム」をテーマとする連携研究プロジェクトを企画・実施するとともに、この研究成果を学科の学生教育及び地域・社会等に広く還元する。</p>
実行サイクル	<p>3 年サイクル（平成29年～平成31年）</p>
実施スケジュール	<p><平成29年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的取組内容の検討、参画教員選定（～10月） ・連携先機関への打診（～12月） ・実施に向けた連携先機関とのスケジュール調整（～3月）
目標達成を測定する指標	<p><平成29年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携研究プロジェクトの策定 ・プロジェクト参画教員数 ・関連した外部資金への応募・獲得状況
自己評価 (☑を記入)	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・「千本松牧場のトータルブランディングと6次産業化構築の検証」 ・「オホーツク地域における主要農畜産物の販売・マーケティング・地域ブランド形成に向けた戦略の提案」 ・「地域の経済動向等に関する調査・分析・情報提供」 <p>*全て受託研究である。</p>
現状説明を踏まえた長所・特色	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学科の専門性を活かし地方創成に貢献できる。 <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生も参加できるような体制になっている。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部の学生に限定されることが多い。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの学生が関わりをてるような体制に作り上げていく。
根拠資料名	<ul style="list-style-type: none"> ・研究計画書、研究契約書等。

3. その他に関する総合的事項

①	
目 標	<p>■受験生（学生）確保に向けた取り組み</p> <p>オホーツクキャンパスの地域性及び H30 学科名称変更・H31 カリキュラム変更を踏まえ、多面的評価による高い志や目的意識を持った受験生を確保するために、大学・学部全体による広報・募集活動に加えて、学科独自の取り組みとして高校生への参加を呼びかけるとともに、以下の広報・募集活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地方創成フォーラム in 東京農大 ・ 農業女子：チャレンジ&応援プロジェクト ・ 起業体験プログラム in オホーツク
実行サイクル	2 年サイクル（平成 29 年～平成 30 年）
実施 スケジュール	<p><平成 29 年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学科長と入試対策実行委員を中心とした現状分析（～8 月） ・ 活動原案作成→学科内調整→オホーツク入試課と調整（～11 月） ・ 次年度広報・募集活動計画策定、次年度予算申請（12 月）
目標達成を測 定する指標	<p><平成 29 年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現行実施の広報関係企画の評価作成 ・ 次年度広報・募集活動計画策定 ・ 平成 31 年度入試志願者状況
自己評価 (☑を記入)	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の意見を取り入れ、学生目線のパンフレットを作製した。 ・ SNS を活用した広報活動を行った。 ・ 積極的に出張講義を受け入れた。道内の進学率を上げため、道内の出張講義に力を入れた。 ・ 木村俊昭教授が行う講演活動を通して本学科をアピールしてきた。 ・ 農業女子 PJ 活動を行う際、メディアに取りあげてもらおうよう要請した。 ・ オープンキャンパスでは高大連携を行い、地方創生をキーワードにした学生の報告会を行った。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学科教員の能力・専門性を活かした他機関との連携活動を行える点が長所である。 <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学科独自の情報発信能力を持っている。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS を利用した広報を見直す余地がある。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報発信と入学者の関係性を十分に検証できていない。
根拠資料名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学科オリジナルパンフレット、イベント企画書・実施要項等。